

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 30 号	2004年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	--

1. “年頭のあいさつ” (会長 今井 和男 記)

新年、あけまして、おめでとうございます。会員の皆様には、ご家族おそろいで、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。 昨年は、会員の皆様方の、御協力、御支援により、諸行事が、立派に実施出来たことを心からお礼を申し上げます。 昨年の取り組み、活動等を振りかえって見ますと、駐車場の整備をはじめ、草刈り、田植から稲刈り、餅つきの一連、ソバの植付け、収穫、並びに、昨年から新たに取り組みました、椎茸原木切り、菌の植込み、炭焼き、児童を中心とした「里山自然観察隊」の活動等は、会員の積極的取り組みで、実のあるものでありました。すべてが、初めての体験であり、好評を受けました。 一方、山口県環境生活部との協議会（3回開催）をはじめ、各種団体の見学観察等も、毎年増加しており、これらの対応も、円滑に実施出来たことは、会員の御指導、御助力の賜ものであり、深く敬意を表します。 本年は、過去4年の活動取り組みを反省しつつ、「充実感にあふれた」、里山ビオトープの創造に努めて参りたいと思いますので、会員のさらなる御協力、御支援をお願いいたします。 最後に、「里山ビオトープ二俣瀬」の益々のアピールと、会員・ご家族の御健勝と御繁栄を祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。

2. 活動報告(事務局 記)

1月17日(土) 昨年末製作の木炭を使って、池ゾーンの交換作業と新しく2箇所追加して水の浄化をパワーアップした。

3. 今後の予定(事務局 記)

見学者

現在予定がありません。

行事

2月1日〔日〕 作業 湿地帯の整理、椎茸ほだ木の整列

2月8日〔日〕 宇部パワー祭りにパネル参加

2月21日〔日〕 作業

2月28日(土) こどもエコクラブ活動発表会、サポータ養成講座 参加10名

4. ビオトープ関連(ビオトープ周辺の植物) 美濃和 信孝

シイモチとクチナシ

今年の年初めに昭和山のコースを一周した際に見つけた木を今月にご紹介します。

まずシイモチですが、寄合滝の脇の道沿いにこの木が1本だけあります。6mm くらいの赤い実をたくさんつけているので今の時期は良く目立ちます。私にとっては初めて見る木だったので、枝をもって帰って調べたところ、シイモチだとわかりました。シイのような葉っぱをしたモチノキというのが、その名前の由来です。九州では比較的多く見られる木のようですが、本州では山口、広島、島根県に分布するだけの比較的珍しい木です。自然林の一つの植生に挙げられるシイモチ-シリブカガシ群集というのは、各地でレッドデータに載っているくらいですから、分布の北限に位置する山口県では、たいせつにしたい木といってよいでしょう。そのような木がビオトープ周辺にあることは誇りにしてよいと思います。

次にクチナシですが、この木も自然状態で生えているのを見るのは私にとって初めてで、どこかで見たとことのあるような実だとは思いますが、もって帰って調べるまでわからなかった木です。須賀河内川から昭和山に登る道の両側に、一本づつこの木があって、今黄色い実をたくさんつけています。花を見れば、クチナシだとだれでもわかるのですが、実だけを見るととても風変わりな木に見えます。アカネ科に属しますが、他のアカネ科はヤエムグラやヘクソカズラといった草が多いのに、それとはまったく似ていない孤高の種族といった感じがします。

クチナシの名前の由来は、果実の口が開かないことから「口無し」ということらしいのですが、確かにしっかり閉じた上部の口は開きそうもありません。無理矢理この実を開いたら、手の指が真黄色に染まりまって、数日間取れませんでした。この黄色の色素、昔から栗キントンや沢庵を黄色に染めるのに使われていたそうです。現在も天然色素としては、ウコンなどとならんで一般的な色素として使われています。

不思議なのはこのクチナシの種子散布をだれが担っていたかということです。口が開かないことから、鳥や昆虫に種子散布を期待するのは難しそうですから、タヌキなどの哺乳類でしょうか。もしそうだったら糞が黄色く染まるはずですが、そういう糞を発見した人がいたら教えてください。



シイモチ (モチノキ科)



クチナシ (アカネ科)

5. ピオトープ関連 (連載ピオトープ近辺の案内) 事務局 原田満洲夫 車地八景のその5 (横山の落雁)

車地のしもの横山地区は小高い丘陵地帯にあり私の住んでいるところである。現代も越冬したカモやガンが北帰航をする群れをよく見かける。今年も3月ごろになると阿知須の海岸方面から丸山ダムや厚東川ダム方向に向かって飛び行く群れそれも夕焼けの中で一大ショーを見させてほしいと今から待ち遠しい思いである。

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

12月30日 久しぶりに来ました。忙しくてこれない日が多くたまに来ると何事ありません。残念です。今日は風もほとんど無くいい天気です。池の水がとてもきれいでメダカなどがたくさん泳いでいます。蝶も一匹見ました。PS-キトンボ がいました。びっくりしました。ピオトープ会員

1月5日 曇り時々晴れ 今日時々晴れ風も無く、虫の姿も見られたらと思ってやってきました。コガネムシがいました。冬のピオトープもとてもいいものです。水の音と、鳥の鳴き声が微妙にあっています。ピオトープ会員

1月7日 今日は七日で七草粥食べる日で七草を探しに来ました5種類のものでそろいました。会員

7. 会よりの連絡事項

- 1) 厚東川水系、森・川・海水環境ネットワーク協議会殿より助成金を戴きました。皆様へお伝えするとともに、われわれの会が出来る水環境の改善に寄与することに使用させていただきたいと思います。
- 2) 1月17日の初集会で今後の行事の方向性で協議しました重要なことを記載させていただきます。
イ) 里山自然観察隊を今年も行事として行います。この中で子供の教育、観察事項として田植え、蕎麦植え、稲刈り、収穫祭を会員と隊員で行う。
これらの行事に伴う体験一般募集を行わず新会員の募集、観察隊員の募集枠を多くすることになりました。
- 3) 会報のサイズを、B4からA4へ変更しました。これでプリントはやり易くなったと思います。

8. 編集後記

明けまして おめでとうございます。今年も よろしくお願ひします。
初参集日は、今冬 初積雪。雪の重さに 低く垂れ下がる竹のアーチの中を、車の中で 首を引っ込め、厳寒の中の作業を想定しながら 出かけました。思いの外、良い天気にも恵まれて 汗をかいてしまいました。
昨年 初挑戦した炭焼き。水浄化用に充分なる、又、焼肉用の炭まで準備される程 たくさん取れ、灰と化さずに大成功。本当に寒い中を一晩中、火を見守って下さいました皆様 ご苦労様でした。この浄化槽への炭の入れ替えで、前の炭{吉富壮介様が焼かれた}の立派さも再認識させられました。
今年も里山自然観察隊を続け、行事を隊員と会員で行う事となりました。 昨年の経験を基に、より充実した里山自然観察隊となる為にも、一部の方にお任せでなく、皆でサポートして 共に自然に触れ、学んでいきたいと思ひます。 多くの隊員の参加を、期待しています。
これからも自然の中で良い汗を流し、健康に過したいと思ひます。 (松本 フデ子 記)